



▲起業型地域おこし協力隊委嘱式で

他の自治体の事例では、隊員が自分の目標を達成できずに任務を終えるケースが目立ちます。その要因の一つとして、仕事面の支援や、不安や悩みなどの相談に乗るなど、隊員に寄り添う人材がいなかったことがあげられます。

隊員と常に伴走しながら、進捗状況に応じて発生する様々な課題に一貫した支援を行ったり、隊員同士をつないで新たなプロジェクトを創出したりする「ハンズオン支援」ができる指導者を設置し、目標達成に向けた支援を行います。

起業への支援体制

隊員たちの活動を全面的にバックアップ

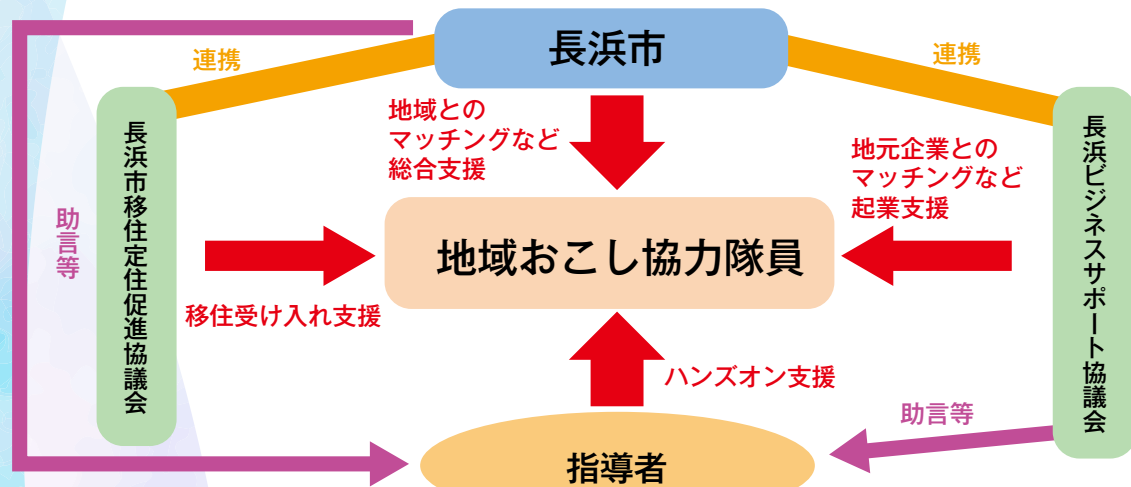
隊員の若い力に期待



長浜ビジネスサポート協議会
おつか けんじ 会長

長浜ビジネスサポート協議会とは市内の商工会議所・商工会・金融機関・大学・バイオビジネス創出研究会等で構成された産学官金が連携する長浜市全体の産業団体です。その活動の一つとして4年前から『ながはま・こほく創業塾』を開催し、起業をめざす方々に創業に必要な知識やノウハウを学ぶ場を提供したり、事業支援室・アンテナショップを設置したりと、新しいコトに挑戦する人々を様々な形で応援してきました。

現在、起業を前提とした地域おこし協力隊員として7名の若者が活動しています。今後は彼らと一緒に新しい長浜を創っていったらと思っています。



今回、起業型地域おこし協力隊の指導者としてこのプロジェクトの企画から携わらせていただいています。町衆の力で黒壁を中心としたまちづくりがスタートして約30年、観光型の地域活性化事例として全国から注目を集めた長浜ですが、インターネットにより作り手が情報発信できるようになった今、店頭でお客様の対応をしているだけでは情報発信をしている他の地域に人は流れていってしまいます。今こそ、近江商人の「行商」が必要な時代だと考えています。歴史や文化の深さ、豊かな自然、おいしいご飯、魅力的な人々、これらの点を繋げて発信することが出来る若い世代が長浜に集えば、地域の方が築いたベースの上に、長浜の魅力を編集し、新しいコンテンツが創れる。と考え、NAGAHAMA EDITORIONと名付けました。

このプロジェクトは地元のことを誰よりも知っている地域の方々の協力なしでは実現しえません。長浜から新たな時代の商売を創り出せればと考えていますので、ぜひ応援やお力添えをお願いできればと思います。



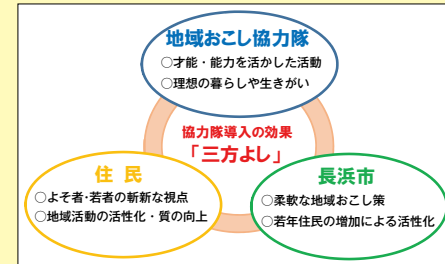
指導者
たかみ 貴士さん

「地域おこし協力隊」は「三方よし」

少子高齢化や都市部への人口流出が進む地方都市が、田舎暮らしを望む都市部の若い人材を呼び込み、地域に活力を生み出す仕組みとして総務省が創設しました。

第1期の協力隊として6人の隊員を委嘱して2年。任期後もすべての隊員が市内に住み続ける見通しです。

隊員の熱い思いと、地域の温かい支援で生まれたものが、長浜の地に根付くこととしています。



第1期の成果

芸術・自然資源を活かした取組や、広大な森林資源を活用した自伐型林業など、隊員の持ち味が地域づくりや経済活動につながり、賑わいを生み出しています。例えば林業では、薪やしいたけ原木の販売、作業道の敷設、危険木の伐採などで収入を得ながら持続的に森林を管理する有限責任事業組合「木民」を設立し、活動しています。



—地域を変える力— 地域おこし協力隊

第2期協力隊始動

地域おこし協力隊という制度に「若者たちが活躍できるまちを創る」という長浜オリジナルの目標を加え、市が提案するプロジェクトに対して事業化や起業をめざす、県内では初めての「起業型」地域おこし協力隊として募集しました。

新しい感性で長浜の未来をともに創るというまさに「本気」のプロジェクトで、名づけて「NAGAHAMA EDITORION」。

長浜の暮らしに魅力を見出し、自分がやりたいことを実現する場所として、7人の若者が集まりました。

地域に人を呼び込み、元気にするだけでなく、地域の中で自分の思いやアイデアをどのように「仕事」に結び付けていくか。そして、自らの力で長浜に住み続けるための経済活動が地域の活力を生み出していくことを、彼らは求められています。

地域の中で「三方よし」をめざす隊員たちと、その活動を支援する体制を紹介します。